



通常総代会とは？

通常総代会は年に1度開催される生協の最高議決機関です。前年度1年間すすめてきた事業・活動の確認や決算、今年度取り組むことなど、重要な意思決定を行います。

6月15日(水)ホテル青森で第30回通常総代会を開催しました。

今年の総代会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、規模を縮小し、運営を簡素化して開催しました。また、総代の皆さんには、書面議決書の提出をお願いし、書面での議決を中心に行いました。議事では、奥崎専務理事より第1号議案から第4号議案まで議案書に基づく提案説明が行われ、特定監事の小渡

章好さんから、監査報告が行われました。質疑・答弁では、総代5名が発言。理事会より答弁が行われました。その後に行われた採決では総代定数500名に対し、498名(実出席37名、委任出席0名、書面議決461名)が出席し、2021年度事業報告・決算報告・2022年度事業計画・収支予算など、4議案すべてが賛成多数で可決・承認され、全日程を終えました。

コープあおもり第30回通常総代会を開催



司会を務めた
理事の能登谷紀子さん



前半の議長を務めた
五所川原地域の網野千恵子さん



後半の議長を務めた
五所川原地域の小山内恵美子さん



理事長
菅原正

総代会を終えて

コープあおもりは1993年3月21日、当時の3生協(青森市民生協・弘前市民生協・八戸市民生協)が合併して誕生し、2010年3月21日には弘南生協とも合併して新生コープあおもりが誕生し今日に至ります。この間、累積欠損金を抱えた時期や、2008年の「手作り餃子農薬混入事件」、2011年の東日本大震災など、多くの苦難を組合員・職員、そしてお取引先が協力・連携して乗り越えてきました。来年、2023年はコープあおもり創立30周年、

青森県内に地域生協が誕生して50周年となる節目の年を迎えます。コープあおもりが社会的な役割を担う場面も多くなってきたと、これまでの高齢者等見守り活動、コープフードバンクや子ども宅食おすそわけ便への食材や雑貨品の提供、はじめてばこのお届け等に加え、新型コロナウイルスに感染した方で自宅療養を余儀なくされた方へ食料品セットをセットしお届けする役割も担いました。宅配センターの体制が厳しい状況下で、本部からの応援も含め、できる限りの対応を行ってきました。また、ロシアによるウクライナへ軍事侵攻により、何の罪もない民間人が多数犠牲となり、ウクライナ国内では人道支援を特に必要としている子どもたちが300万人、避難先の難民受け入れ国で220万人以上、合わせて500万人以上にのぼっています。そのような中、3月から4月にかけてユニセフ緊急募金にも

今後、コープあおもりが、青森県民、とりわけ社会的に弱い立場の人々、くらしが困難な状況にある人々のために、健康で安心してくらす地域社会、人と人がつながり、笑顔があふれ、信頼が広がる地域社会の実現をめざして、益々発展していくことを願っています。新型コロナウイルス感染症の収束は、いまだ目に見える形で実感できる状況ではありませんが、「コープあおもりの基本理念」を常に事業・運動の中心に据え、「コープあおもりの行動指針」を心に刻み、今総代会で確認された「2022年度全体方針5つの柱」に沿って、組合員・職員・お取引先が事業・運動を協力して共にすすめていく、その実現をめざしていきたいと考えています。そのために、組合員の声を大切に、くらしに寄り添い、くらしの願いを実現できるよう、尽力してまいります。



資格審査委員を代表して総代会が成立していることを報告する理事の上田ゆかりさん



監査報告をする
監事の小渡章好さん

2022年度 全体方針

5つの柱

- 1、組合員の声を大切にし、声に応える活動を進めます。
- 2、組合員のくらしに役立つ事業を推進します。
- 3、安心してくらす地域社会づくりに貢献します。
- 4、人材の確保と職員の育成を図ります。
- 5、事業の損益改善と、健全な経営づくりを進めます。